

| 科目名 | 体育実技Ⅲ(展開) Physical Trainig Ⅲ | | 担当教員 (研究室番号) | 大西 範和 (501) | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | norikazu.oonishi@mcn.ac.jp | | | | | |
|----------------------------------|--|---|-----------------|--|----------|-----------------------|----------------------------|-----------|----------|----|------------|---|
| 履修年次 | 2年次 前期 | 科目 区分 | 教養・基礎科目 | | 選択 区分 | 自由 | 単位数 (時間) | 1(30) | 授業 形態 | 実技 | 科目等 履修生 | 否 |
| 科目 目的 | 生涯にわたり、自分の健康管理や自己実現のために、積極的にスポーツ活動に参加できる能力や姿勢を身につけたい。また、スポーツやレクリエーションのプログラムを自ら作って提供する立場に立って、企画・運営できる能力の獲得を目指す。特に障がい者や高齢者など比較的体力の低い対象者に対して、運動やレクリエーションのプログラムを提供できるようにしたい。 | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ ポリシー (DP) | 主要なDP | B 多様な考え方や様々な背景を持つ人々の特徴を理解するための、幅広い教養を身につけている。(知識・理解) | | | | | | | | | | |
| | 関連する DP | A 人々の生命と人間としての尊厳及び権利を尊重し、共感的に関わる姿勢を身につけている。(姿勢・態度) D 様々な職種との連携において、看護専門職としての役割を果たすためのコミュニケーション能力を身につけている。(技能・表現) | | | | | | | | | | |
| 到達 目標 | 1. 協調して、目的に応じたレクリエーションやスポーツのプログラムを計画することができる。(A、B、D) 2. レクリエーションやスポーツのプログラムをホスピタリティに配慮して実施することができる。(A、D) 3. 実施したプログラムの成果や課題についてグループで総括し発表することができる。(D) | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 (基準) | 毎時の活動状況(80%)、成果検討会における総括及び取り組み全体への貢献度(20%)、出欠席状況(1回の欠席で-8%) | | | | | | | | | | | |
| 再試験の有無と 基準等 | 毎時の活動状況をもとに成績評価を行うため、再試験は実施できない。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 特になし | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 特になし | | | | | | | | | | | |
| 学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待 | 多様な対象者に対してスポーツやレクリエーションの機会を提供する立場を体験し、企画・運営能力を身につけるとともに、ホスピタリティについて考える機会にして欲しい。 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 学園祭などの機会を捉えて、受講者以外の学生や学外の人にプログラムを提供する体験を積みたい。その場合、それらのスケジュールに合わせて、授業日時を変更することがある。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | | 学習内容 | | | | 主担当 教員 | 授業 方法 | | | |
| 1回 | オリエンテーション | | | 授業内容、出欠席の扱いや成績評価に関する説明、グループ分け、全体の方向性の検討 | | | | 大西 | 演習 | | | |
| 2回 | ニュースポーツを体験する①インディアカ | | | インディアカを体験し、その特性、方法や実施上の注意などについて学び、運動やレクリエーションプログラムを実施する際に役立てられるようにする。 | | | | 大西 | 実技 | | | |
| 3回 | ニュースポーツを体験する②ソフトバレーボール | | | ソフトバレーボールを体験し、その特性、方法や実施上の注意などについて学び、運動やレクリエーションプログラムを実施する際に役立てられるようにする。 | | | | 大西 | 実技 | | | |
| 4回 | ニュースポーツを体験する③フライングディスク | | | フライングディスクを体験し、その特性、方法や実施上の注意などについて学び、運動やレクリエーションプログラムを実施する際に役立てられるようにする。 | | | | 大西 | 実技 | | | |
| 5回 | 障がい者スポーツを体験する①ブラインドサッカー | | | ブラインドサッカーを体験し、その特性、方法や実施上の注意などについて学び、運動やレクリエーションプログラムを実施する際に役立てられるようにする。 | | | | 大西 | 実技 | | | |
| 6回 | 障がい者スポーツを体験する②シッティングバレーボール | | | シッティングバレーボールを体験し、その特性、方法や実施上の注意などについて学び、運動やレクリエーションプログラムを実施する際に役立てられるようにする。 | | | | 大西 | 実技 | | | |
| 7回 | 学生によるプログラムの実施のための検討① | | | 11~14回の授業時間に実施する運動やレクリエーションのプログラムについて計画・準備する。体験してきた種目を、参加者の体力や特性に合わせてアレンジする。 | | | | 大西 | 演習 | | | |
| 8回 | 学生によるプログラムの実施のための検討② | | | 11~14回の授業時間に実施する運動やレクリエーションのプログラムについて計画・準備する。体験してきた種目を、参加者の体力や特性に合わせてアレンジする。 | | | | 大西 | 演習 | | | |
| 9回 | 学生によるプログラムの実施のための検討③ | | | 11~14回の授業時間に実施する運動やレクリエーションのプログラムについて計画・準備する。体験してきた種目を、参加者の体力や特性に合わせてアレンジする。 | | | | 大西 | 演習 | | | |
| 10回 | 学生によるプログラムの実施のための検討④ | | | 11~14回の授業時間に実施する運動やレクリエーションのプログラムについて計画・準備する。体験してきた種目を、参加者の体力や特性に合わせてアレンジする。 | | | | 大西 | 演習 | | | |
| 11回 | 学生によるプログラムの実施① | | | 企画したプログラムを実施する。作成した実施計画に沿って、進行や役割分担、事前準備などを行い、メンバー全員で協力して実施する。 | | | | 大西 | 実技 | | | |
| 12回 | 学生によるプログラムの実施② | | | 前回の実施状況、成果やアンケート結果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。 | | | | 大西 | 実技 | | | |
| 13回 | 学生によるプログラムの実施③ | | | 前回までの実施状況、成果やアンケート結果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。 | | | | 大西 | 実技 | | | |
| 14回 | 学生によるプログラムの実施④ | | | 前回までの実施状況、成果やアンケート結果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。 | | | | 大西 | 実技 | | | |
| 15回 | 成果検討会 | | | 実施したプログラムについて総括し、アンケート結果を含め、その成果や課題について検討し、内容を受講者全体で共有する。 | | | | 大西 | 演習 | | | |

学 習 課 題

2～6回目課題（事後）：学習した種目の特性、効果、方法や実施上の注意などについて復習する。

7～10回目課題（事前）：実施する運動やレクリエーションプログラムの計画を検討できるよう準備する。

11～14回目課題（事前）：実施する運動やレクリエーションのプログラムを作成し実施できるよう準備する。

11～14回目課題（事後）：実施した運動やレクリエーションのプログラムについて総括しておく。

15回目課題（事前）：実施した運動やレクリエーションのプログラムの総括を発表できるようにしておく。

実務経験を活かした教育の取組